



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



Yet... Joy! Hope! Gratitude!

教区の皆さん新年明けましておめでとうございませう。皆さんとの生活も五年目に入りまして。二年前の教区評議会を取り上げた「みことばに触れ、食べ、生かされる」体験を日々の生活で深めながら「それでも、喜び、希望、感謝」の Motto を私と一緒に生きてくださいと繰り返してきまして。それで十分だと思いは今も変わりませんが、それでも新年にあたっていくつかのことをお話したいと思ひます。

日曜日の説教があります。音声であるいは文字で代わり番に発信する価値があります。日曜日に百人の信者に説教したとします。もし、ネットでも発信するならば不特定多数の人に届けることができるのです。宣教と一口に言っても、宣教で大切なことはイメージすることです。

頭の擽り

聖師ザビエルの熱き思いを再び

鹿兒島教区長 郡山健次郎

私には就任以来鹿兒島教区は日本のカトリック発祥の地という思いが強くあります。そして、それにふさわしい環境を整えたいと思ひます。二年前でしたか、パパ様との謁見のときも鉄砲伝来から聖師ザビエルの上陸、シドゥッチ神父様のことをお話しました。そして鹿兒島教区が物質的にも精神的にも日本の社会にとつていかに大きな意味を持つ場所であるかを強調しました。同じことを皆さんとも再度確認したいと思ひます。

教区のネット宣教元年

環境を整えたいと思ひますが、それは先ず鹿兒島教区ネット宣教元年として教区から世界に向けて発信するということ。具体的には、教区のホームページの充実です。日本語、英語をはじめ主要言語での発信です。先ずは、司祭たちの

ネットは網のことで世界に張り巡らされた通信網のことです。説教台から語られた言葉が世界中を駆け巡るのです。想像するだけでワクワクしませんか。また、ウェブサイトをという言葉も聞いたことがあると思ひます。ウェブとはクモの巣という意味です。司祭たちが張り巡らした説教のネットやウェブにどこで誰が引つかかるか分からないのです。それは宝くじに当たるよりも遙かに確率性の高いものなのです。

不漁に泣いた弟子たちに復活の主が言われたのは「舟の右側に網を打ちなさい。そうすればとれるはずだ」(ヨハネ21・6)ということでした。「あなた方は舟の左側に網を打つてとれないと嘆く。右に打つたらどうだ。

2010年 謹賀新年 教区の司祭団

司教 郡山健次郎
名誉司教 糸永真一
司教総代理 小川靖忠

鹿兒島地区 東 研(始良)、寝占敦之(指宿)、泉 浩二(加世田)、小川靖忠(鴨池)、中野裕明、G・ティエン(ザビエル)、J・ムイベルガ、W・フリチェル、J・ハンマ(谷山)、S・ロベルト(玉里)、竹山 昭(紫原)、牧山田一(吉野)、坂本 進(種子島)、国原武志(国分)、永山幸弘(マリア山荘)、松森孝郎、O・ベルナルディーノ、松田清四朗(教区本部)、山口好信(研修の家・鴨池協力司祭)、岡 俊郎(純心鹿兒島修道院)、田辺 徹、成相明人、田原 章(引退)、末吉卓也、浜崎眞実(出向)

北薩地区 大松正弘(出水)、山口重義(阿久根)、M・アッシャー(入来)、J・レヒナ(大口)、橋口啓悟(川内)

大隅地区 J・タム(鹿屋)、美島春雄(志布志)

大島地区 松永正男(大笠利)、栃尾泰英(瀬留)、P・アン(大熊)、小隈憲士(名瀬聖心・地区長)、J・ドゥン(小宿)、柳 修(古仁屋)、平 孝之、柳本繁春(古田町)、大野和夫(名瀬聖心協力司祭)

徳之島地区 福崎英雄、T・メニヒ(母間)、H・ハヌス(和泊)

験談ももう一つの網になることを忘れてはなりません。各小教区の司牧評議会ではいろいろの行事について議論が多いと思ひますが、言葉にしないで行くたくさの体験を丁寧掘り起こす場にならないでしょうか。義務と考えると重たくなりませんが、イエス様からの強いつとすに喜んでこたえようとするのが大切です。

す。しかも発信することが大切なのですから希望すれば匿名での参加も可能です。もう一つの利点は、信者でない家族に直接宣教することとはしばしば難しいと思ひますが、ネットを紹介することなら簡単にできます。個人的な話になりますが、ホームページ開設当初、「五十円宣教」というのを

上げたと思ひます。ザビエル教会が主な対象になるでしょうが、巡礼者を迎える環境を整えることも大事です。多言語での案内板はもちろん、鹿兒島教区の巡礼地を紹介する地図等の案内書も必要です。すでに機能しているようですが、巡礼者を迎える案内するポランティアの養成も必要でしょう。韓国の教会を巡礼したとき、行く先々で韓国教会の歴史について熱心に語る信者さんの姿を今も忘れません。

また、徳之島では年一回島内一周徒歩巡礼がなされています。継続して欲しいと思ひます。足の不自由な人でも参加できる巡礼になつたらもつとすばらしいと思ひます。昨年十一月一日の母間教会五十周年記念ミサには徳之島はもちろん奄美からも多くの参加者がありました。奄美諸島は「道の島」と呼ばれるように島々が飛び石状態に連なっています。「道の島巡礼」と銘打つた島から島への巡礼も可能ではないでしょうか。ミサに行くだけでも大変な方もいるでしょうが、ザビエルの熱き思いを思い起こしていただいて「日曜ミサ巡礼」にされたらどうでしょうか。教会学校の子供たちと各教会を巡つてロザリオを捧げることもおすすめします。

巡礼者を迎える環境整備と教区内巡礼運動の推進

また、徳之島では年一回島内一周徒歩巡礼がなされています。継続して欲しいと思ひます。足の不自由な人でも参加できる巡礼になつたらもつとすばらしいと思ひます。昨年十一月一日の母間教会五十周年記念ミサには徳之島はもちろん奄美からも多くの参加者がありました。奄美諸島は「道の島」と呼ばれるように島々が飛び石状態に連なっています。「道の島巡礼」と銘打つた島から島への巡礼も可能ではないでしょうか。ミサに行くだけでも大変な方もいるでしょうが、ザビエルの熱き思いを思い起こしていただいて「日曜ミサ巡礼」にされたらどうでしょうか。教会学校の子供たちと各教会を巡つてロザリオを捧げることもおすすめします。

また、徳之島では年一回島内一周徒歩巡礼がなされています。継続して欲しいと思ひます。足の不自由な人でも参加できる巡礼になつたらもつとすばらしいと思ひます。昨年十一月一日の母間教会五十周年記念ミサには徳之島はもちろん奄美からも多くの参加者がありました。奄美諸島は「道の島」と呼ばれるように島々が飛び石状態に連なっています。「道の島巡礼」と銘打つた島から島への巡礼も可能ではないでしょうか。ミサに行くだけでも大変な方もいるでしょうが、ザビエルの熱き思いを思い起こしていただいて「日曜ミサ巡礼」にされたらどうでしょうか。教会学校の子供たちと各教会を巡つてロザリオを捧げることもおすすめします。

信者と地元が温かい交流

屋久町主催第二十七回「シドッチ祭」

十一月二十三日(月)屋久町小島地区で恒例の「シドッチ祭」が開催され、シドッチ神父と島民の心の交流の史実を大切に、全世界に発信しようとする地元と神父の宣教師とその遺業を称えようとする信者たちが交流した。



シドッチ神父はキリスト教禁制下の一七八年十月十一日、日本での宣教を夢見て密かに屋久島の恋泊に上陸した宣教師。しかし数日後に捕縛され、長崎、江戸へと送られ、一七五五年十一月二十七日、幽閉先のキリシタン屋敷で来日の目的を果たせぬまま獄死した。しかし幽閉中にシドッチ神父の尋問に当たった新井白石がその記録に所見を加えて「西洋紀聞」(采覧異言)を著し後の開国に

つながっていったとされている。この日本における西洋文化導入の恩人とも言えるイタリヤ人宣教師ジョバンニ・パチスタ・シドッチ神父の遺業を記念しようと屋久町が上陸地に記念碑を建立したのが一九八〇年三月のこと。また屋久町では一九八三年以降毎年「シドッチ祭」を開催してきており、昨年十一月のもので二十七回目となった。

この第二十七回シドッチ祭には、教区でも郡山司教を団長に約四十人の巡礼団を組織し、十一月二十二日と二十三日の両日、屋久島教会でミサをささげ、また地元屋久町、特に小島地区の人々と温かい交流のひとときを持った。

二十三日の記念祭当日、

教区の巡礼団は屋久島教会で地元の信者とともにミサをささげ、その後上陸記念碑前で開催された屋久町主催の「シドッチ祭」に出席した。

記念祭ではまず日高十七郎町長が「シドッチ神父とは文化、宗教の違いはあるもののその志は素晴らし

+KABAYAN SEKSIYON+ "PAGBUBUO"

Ang pananampalataya ay isang katotohanang tumitimo sa ating buong pagkatao-sa ating mga isipan (mga paninindigan), sa ating mga kamay at kalooban (gawaing may pagtatalaga) at sa ating mga puso (pagtitiwala). Ang nilalayang aspeto ng pananampalataya yang Kristiyano na binigyan-anyo sa Aral-Pananampalataya (ang Kredo), Asal-Pamumuhay (ang mga Utos) at Pagsamba (ang mga Sakramento) ay nagpapakita rin sa kabuuan ng pananampalataya. Samakatuwid, ang Pananampalatayang Kristiyano ay hindi isang bagay na kalat. Isa itong maalah na uri ng pamumuhay na nag-uugnay sa ating mga isipan, puso at kalooban na may kasamang Aral-Pananampalataya, Asal-Pamumuhay at Pagsamba sa gitna ng isang nagpapatuloy na sambayanan ng mga kapwa-alagad ni Kristo.

Upang maunawaan ang "Doktrina" o katotohanan kung ano ang pananampalataya, kinakailangan kilalanin ang dimensiyong Pangpamumuhay at Pagsamba nito. Laging bimibigyang-diin ito ng Kasulatan. "Nakatitiyak tayong nakikilala natin ang Diyos, kung sinusunod natin ang kanyang mga utos" At ang paraan ng pananalangin ay "sa pamamagitan niya, kasama niya, at sa kanya, kasama ng Espiritu Santo, ang lahat ng papuri at karangalan ay sa iyo, makapangyarihan Ama, magpakailanman. Amen."

Ngayon sa pang-araw-araw na buhay natin ay may mga katanungan tayo at ito'y pwedeng masagot at matutulungan tayo. Halimbawa: *Ano ang kahulugan ng "pananampalataya" sa pang-araw-araw na buhay?* Ang pananampalataya sa malawak na kahulugan ay ang paraan ng ating pagkilala, pagtanggap at positibong pakikipag-ugnayan sa iba, lalo na ang pagtitiwala, pagmamahal, at katapatang nararanasan natin sa pamilya at mga pakikipagkaibigan. *Ano ang kahulugan ng "pananampalatayang Katoliko"?* Ang sagot ay-"Ang Pananampalatayang Katoliko ay "kilalanin, mahalina, at sundin si Kristo sa Simbahang Kanyang Katawan". Ito ay ang asal, pagkilos at proseso na sa pamamagitan ng kapangyarihan dulot ng biyaya ng Diyos tayo ay: ma layang nagtatalaga ng ating buong sarili sa Diyos, nag-aalay ng ating kalayaan, ng ating pang-unawa at ng ating buong-kalooban sa Diyos na naghahayag ng kanyang sarili at kanyang plano, at buong-pusong sumang-ayon sa Kanyang Pahayag. Marami pang ibang mga katanungan, sa susunod ay tatalakayin natin.

新風

新年あけましておめでとうございます。神の豊かな祝福が皆様のご家庭に注がれますように！

新年にあたり、改めて教会の使命について考えます。使命というかこの世における教会の存在理由といつてもいいと思います。

ところで社会における人間関係は一般的に家族関係と職場関係で構成されているといわれます。血縁と生活手段としての人間関係以外に、友達関係もありませんが、同じ信仰を共有する仲間関係もあります。私たちはキリスト信者として、神の家族を形作っています。

ところで、聖書の中にイエスの母と兄弟がイエスを探す場面があります。「イエスの母と兄弟たちが来て外に立ち、人をやってイエスと呼ばせ

神の御心を行う人こそ...

た。大勢の人が、イエスの周りに座っていた『御覧なさい、母上と兄弟姉妹がたが外であなを探しておられます』と知らされると、イエスは『私の母、私の兄弟とは誰か』と答え、周りに座っている人々を見回して言われた。『見なさい。ここに私の母、私の兄弟がいる。神の御心を行う人こそ...』

こそ、私の兄弟、姉妹、また母なのだ』(マルコ福音書三章31-35節)

イエスの言葉は血縁を無視したようにも取れますが、それを超えた関係があることを指しています。

教会には様々な人々が集まっていますが、八割程度は単身で、家庭に不安

要因を抱えています。教会に助けを求めて集まっている、と理解した方が正解でしょう。教会に来て、温かく迎えられる癒しを感じる人たちも少なくありません。ただ、イエスが、兄弟姉妹と呼んでくださるには一つの条件があります。それは、「神の御心を行う人こそ...」です。

と、具体的にはまず、罪を避け、罪を犯したら悔い改めてゆるしを願うことです。次に神が私たちに愛したように人を愛することです。神が愛したようにとは自分を生贖としてささげることです。最近ほとんど聞かれなくなった犠牲をささげるといふことです。幼子は親の犠牲無くしては育ちません。真の愛は犠牲無くしては成り立たないのです。この世にある教会がこの真の愛を人々に提供できますように。(H・N)

ものその志は素晴らし。郷土史の中でも後世に伝え、そして世界へと発信したい」と挨拶した。これを受けて郡山司教は長年記念祭を継続して開催してきた地元で「ここが明治維新へと日本を動かした聖地。大切にしていきたい」と謝辞を述べた。

その後は、小島地区公民館に会場を移し、小島に住むシドッチ神父について研究している古居智子さんの熱のこもった講演を聞いた。シドッチ神父を発見し、数日間におたり生活をともにした屋久島の人々との心温まる交流と新井白石とシドッチ神父の人格的交わりを中心とした彼女の講演は、まるで劇のシナリオのようで、聴衆を三百年前に誘ってくれるようだった。そしてその後舞台の上で披露された地元の小中学生によるシドッチ神父の朗読劇では、多くの人々が感動の涙を流していた。その後、小島地区婦人会の手料理のもとなしを受けた巡礼団は、来年の来島を誓って屋久島を後にした。

[和善の窓から] その③ 縁尋機妙



縁尋機妙は、えんじんきみようと読みます。信仰の学びに不可欠なものです。「よい縁がさらにより縁を尋ねていく仕方が実に機妙である」という意味です。

私たちは、聖書なり何なりを学ぶのですが、学ぶ者同士の縁を大切にしなければならぬと思います。それは言うまでもなく、復活のキリストを中心とした結縁のことを指しています。「和善耕心塾」の学びの主題にはなりません、無くてはならない霊性です。和善の学びが、よい縁がさらにより縁を尋ねていくための道になることを願っています。その縁の広がり不思議さを体験しています。

また、この言葉の対語に「多逢勝因」というのがあります。「たほうしょういん」と

読み、「よい人に交わっていると、気づかないうちに、よい結果に恵まれる」という意味です。合わせて「縁尋機妙、多逢勝因」といって、和善の学びの「いのちの杖ことば」の一つです。私たちは、「佳人」に逢いたいのです。そのために、聖書の中の、また、私たちの周りの「佳人」を探し求めているのです。信仰の学びの要諦です。忘れてはなりません。

ファシリテータ Fr. 松田清四朗

～和善の学び～

年頭新たに：いつからでも、
どなたでもどうぞ！

場 所：教区本部3階
新春講座開始日：1月4日(月)／1月6日(水)／1月8日(金)
(月)18:30(救済史) (水)10:00(救済史：第2, 4) (木)18:30(Focusing) (金)10:00(救済史) 和善耕心塾ブログ

<http://mr826.net/wazen/blog>

創立五十年を祝う 児童養護施設「白百合の寮」

十一月二十九日(日)奄美で唯一の児童養護施設「白百合の寮」が創立五十周年を迎え、その記念式典



初優勝した白百合の寮野球部

が奄美市内のホテルで開催された。第一部は感謝ミサで、崎濱宏美神父(コンベンツアル会管区長)司式でささげられた。第二部では、理事長挨拶、感謝状贈呈、市長と市議の祝辞、寮出身者の謝辞の披露などがあり、その後祝賀会で喜びをともしした。

頑張つて!とロザリオ98環 指宿教会が司祭年の取り組み

定もあつて現在では乳児から十八歳までの定員七十八人となつてゐる。寮を運営する社会福祉法人カリタスの園は、「わたしの最も小さい者の一人にしたことは、すべてわたしにしたのである」とのイエスのみことばに基づき「カリタス(愛、優しさ、温かさ)の実践で家庭的に恵まれない子どもたちを懸命に育んでゐる。これまでに白百合の寮を「第二の我が家」として巣立っていった子どもたちは六百人を超え、寮で培われた精神で立派な社会人として生きてゐる。

寮では、記念式典に合わせて「創立五十周年記念誌」を発行した。また昨春秋に開催された県の秋桜杯児童施設球技大会で寮の野球部が見事初優勝を飾り、創立五十年に花を添えてくれた。(報告・平 三國)

司教執務室便り

弱さの美学?

「神さまは弱い人にこそ寄り添ってくださる。」昨年の福者レオ七右衛門殉教祭での講話の中で耳にした言葉。こうした信仰は特に真新しいものではないが、あの時は初めて聞く言葉のように新鮮に響いた。小教区を離れた立場で生活するようになって自分のふがいなさばかりが目につき、「なれかし」と受諾した手前尻込みするわけにもいかず、それだけにたえず背中を押してくれる力のある言葉を捜しているからだと思ふ。だからあの時も妙に納得し「そうか」とまた安心して一歩前進できるように思えたのだ。

「鹿児島教区はキリスト教発祥の地。世界に発信する価値がある」と力んでも見通しが立たずもどかしい思いに駆られていた。そんな折、ザビエル様の片腕が安置されているローマの「ジェジュ教会と姉妹教会」という話が持ち上がった。しかもイエズス会司祭からの提案と聞けば思わず身を乗り出してしまふ。それというのも、巡礼に参加した信者さんの「ザビエル教会を巡礼教会にしたい」との熱心な話に同行の司祭が口にしたのが姉妹教会案。そうなる、ジェジュ教会でしか手に入らない御絵やさまざまなグッズがザビエル教会でも買える! ジェジュ教会で鹿児島産のザビエル様や福者レオ七右衛門の御像が販売できる! 想像するだけで楽しくなる。考えたこともない発想だが、突然ローマとつながったことで川幅の広さに進みあぐねている姿をこぼして、あつとつ間に岸に橋をかけてくださったような驚きだ。弱さや無策も悪くない。



1月の会と催し

- 1日(金) 神の母聖マリア 世界平和の日
- 3日(日) 主の公現
- 4日(月) 七田八十吉神父命日(1980年) ルカ神父命日(1998年)
- 5日(火) 教区司祭会・教区本部・16時
- 10日(日) 主の洗礼
- 12日(火) レデンプートル例会
- 14日(木) 永島泰蔵神父命日(2002年)
- 17日(日) 年間第二主日
- 18日(月) キリスト教一致祈祷週間・~25日まで
- 19日(火) ハイシク神父命日(1989年)
- 24日(日) 年間第三主日
- 25日(月) 郡山健次郎司教霊名(パウロの回心) 司祭評議会・教区本部・10時 司祭大会・鹿児島市・~28日まで
- 26日(火) フェリエ神父命日(1919年)
- 28日(木) 定例司祭集会
- 31日(日) 年間第四主日 カトリック児童福祉の日(献金)

ようこそ阿久根へ

ポルティユの御摂理修道女会

写真は十一月二十七日(金)来鹿したポルティユの御摂理修道女会(本部はパリ)のシスターたちで、聖園老人ホームで奉職する三人のシスターと総長、総長顧問の面々だ。同修道会は一七六二年一月十四日にドイツに隣接する東フランクスの寒村で、子女の学校を始めた教育修道会。創始者は一九五四年に列福されたジャン・マルタン・モワイエ神父。教育修道会として



「ゆらいあい」が特定非営利活動法人の設立申請 二〇〇五年六月から、第二と第四の土曜日に聖母寮(鹿児島市唐湊)で高齢者の集いを実施している「ゆらいあい」が、組織を法人化するために十一月二十一日(土)設立総会を開催した。その結果、同会を「特定非営利活動(NPO)法人『聖の郷ゆらいあい』」として鹿児島県知事に申請した。会ではまた泉浩二神父を理事長に、これまでの活動を継続しながら新しい動きに挑戦するとしている。

今回の阿久根への派遣はベトナム管区からで、日本では初めての修道院となる。現在ベトナム人会員は約五百人、フランス人会員は約二百人。二〇一二年一月十四日に創立二百五十周年を迎える。

お詫びと訂正 広報部 教区報十二月号「北薩地区宣教奉仕者養成講座」のコーナーで引用箇所等に間違いがありました。お詫びし訂正いたします。間違いは箇の九行目。誤問違いは箇の三五八条、三五九条、三六〇条 1・正しくは「合わせて八五八条、八五九条、八六〇条」 2・間違いは箇の十四行目。

誓願宣立50年

レデンプトール宣教修道女会
Sr. カタリナ・ガンドル



「喜びを感じます。いつも必要に応じて、神さまが呼んでくださるところで仕事をさせてもらっている」とは、レデンプトール宣教修道女会のシスターカタリナ・ガンドル(七十五歳)の言葉。昨年十一月一日、初誓願宣立から五十年を迎えた。西ドイツはバイエルン州イーゼンに生まれたシスターは、中学卒業後、体の弱

かった母親を助けるため家事を手伝いながら専門学校へ通った。修道女への憧れは早くからあったものの、レデンプトール宣教修道女会の門を叩いたのは二十三歳になってから。そして入会から七年後の一九六五年五月、スザンナ、モニカの両シスターとともに来日した。以来その間、アメリカ留学が三年あるがずっと鹿島で働いている。来日当初のシスターたちの目的は鹿島市の紫原に幼稚園を開設すること。しかし市側の計画と重なったため女子寮「聖母寮」の設置へとチェンジとなった。「チャレンジだった」と不慣れた仕事の苦労を語る。「でも宣教とは必要に応じての奉仕だから」とビシヤリ。その後、寮の管理、大学や短大でのドイツ語の授業を受け持った。大学は数年前に退職したが今でも私立高校の授業と寮での個人的なドイツ語のレッスンをしている。日本での生活も四十年を超えたシスターは両親に加え兄弟も亡くなり、今は一人。「ドイツに帰ろうとは思いません。日本はふるさと」とニコリ。五十年間奉仕の道を歩き続けた満足そうな笑顔が眩しかった。

みことばシリーズ⑧

貧しい者は幸いである

教区助祭 四條 淳也

ある黙想会でイエスのイメージを聞かれた。その時は「十字架で苦しんでいるイエス」「愛のイエス」など浮かんだが、自分の子供の頃を思い出し「貧しいイエス」と答えた。その時は「経済的に貧しい」と感じていた。貧しいとは経済的なことだけなのだろうか。新約聖書を読んでみよう。

「心の貧しい人々は、幸いである、天の国はその人たちのものである。」(マタイ五・3)ここでは「心の」となっている。これには心が豊かであるのが望ましいのに、心が貧弱とはなぜと疑問に思う。この疑問解消のために旧約聖書にそ

の原典を求めると「これらはすべて、わたしの手が造り、これらはすべて、それゆえに存在すると、主は言われる。わたしが顧みるのは、苦しむ人、霊の碎かれた人、わたしの言葉におののく人。」(イザヤ六六・2)とあった。「心の貧しいは」「苦しむ人、霊の碎かれた人」の省略である。さらに口語訳聖書では「主は言われる、『わが手はすべてこれらの物を造った。これらの物はことごとくわたしのものである。しかし、わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者であ

る。』(イザヤ六六・2)このように「へりくだって心悔い」ている人が幸いなのである。フランシスコ会訳では「自分の貧しさを知る人は幸い」(マタイ五・3)と訳されており、わたしたちは、「自分の努力で得た物は何一つなく、すべて神から与えられた物を預かっているのである」という自分を知っている者は幸い、と言っているのである。「心の貧しい人は幸い」について永山神父はマリア山荘HP「森の息吹・日常へのまなざしシリーズ」『日常の心(困憐めさの体験は母なる大地)』に詳しく掲載している。是非読んで頂きたい。以下はHPの一部。「パウロは分裂した人間の道徳的な惨めさの只中であって『わたし

信仰と漢字 (十二)

純心学園 司祭 岡 俊郎

喜寿を迎え、こんなに長く生きて来たこと、この恵みを今までかかわった人々と一緒に神様に感謝したいとミサをささげました。ミサの時、祭壇に向かう、また祭壇から降りてくる自分の歩き方がとても気になります。息を整え、腰骨を立てて、丹田に力がこもるのを味わいながら歩くようにしています。静かに周りに平安の気配を感じて頂きながら生きていくことの有り難さを味わいます。今日の一日の生き様が頂きます、ご馳走さまで、感謝の祭り・ミサとなりますようにと祈りながらです。

お便りのはじめに書く「主の平安」を思いながら、平安の気配がどんな生き様なのだろうかと思いを調べてみました。平は「と」書いて、菜の葉が水面に浮かんで水上に水平である所から「ひらたい」意として使われる。「安」は月経時に婦人が「おむつ」(襦袢)と書いてキョウホと読む)を敷いて奥の間に静かに座っている意。静かに屋内にいる意となった。命を育む使命を生きた女性が、授かった命に体をそえて産んで下さった。父親になる男性が心身を母親と一つにして、自分、自分と自己主張するこの私を育てて下さった。

我(ガ)我と驚(ガ)鳥の出来損ないかのように叫ぶ、この欲深い人間・私を心身ともに健康に丈夫に育てて下さった両親に感謝しながら、喜寿の意味を調べてみました。喜は喜ぶの草書体ですから、ラツキーセブンが三位一体の神の信仰に基づくものだ、自分に言い聞かせました。幸運に恵(芽育)まれた人生は有り難うと口先でいくら申し上げても「命」の内

容を一日一日、生活の中でしっかりと味わわなければ、自分の本当の成長・救いを味わうことにならない。命の働きは「本当に生きる」ことだ。即ち「心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。また、隣人を自分のように愛しなさい。」(ルカ十の27・28)。このみ言葉の生活化なのだ、日々自分に言い聞かせています。信仰がまつとうされますようにと、祈りが毎日の生きる糧となるのです。

文芸

俳句

芸

純心学園 山頭 信子
つわの花咲いてルルドは滴たれり
殉教祭「福者レオナリ」巡礼す
鹿兒島 徳永ノブ子
十字架に初の灯点るクリスマス
純心学園 川上 和
御子のやど貧しき馬屋愛に満つ
ベツレヘムの星は輝く今の夜も
鹿兒島 春山マリ子
行く先は出会いと別れ来る秋ぞ
ザビエル 上野千穂子
冬灯し幼児のイエス飼葉桶

クリスマスあの人この人想う時
短歌
純心学園 川上 和
小舟漕ぐ弟子ら急ぎて網を打つ皆驚けり
網の重さに
非は君にあると語るや吾もまた君に無実
のこころにあらず
大 口 森 博伸
天国への扉とふ曲われよりもはらから先
にくぐりし扉
鹿兒島 春山マリ子
親戚の愛に包まれ生きてきた自分はやっぱり恵み豊かに